

11月の月間目標

ほんをよもう！

子どもは、絵本や物語を読んでもらうことが大好きです。親のぬくもりを感じながら優れた絵本に接し、一緒に共感し合うひときは、子どもの感性や心を豊かにする貴重な時間になります。子どもは、本を通じて、想像の世界に思いを巡らせ、登場人物の気持ちに触れることで、他者を思いやり、命を尊ぶ心を育てていきます。また、本を読むことで、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めていきます。

子どもが小さい頃は、膝に座らせたり、添い寝をしたりして読み聞かせをすると、親のぬくもりや愛情が伝わり、子どもの情緒が安定します。子どもが自分で本を読むようになれば、親子で感想を言い合ったり、時には子どもに本を読んでもらったりするのもよいかもしれません。親子の時間を共有することで、子どもは家族への信頼感を深めていきます。

寒さに向かうこの時期、暖かくしてゆったりと親子で本に親しみませんか。



子どもが本と親しむために

○親子で本を読む時間をつくりましょう

毎日10分、無理のない時間帯に親子で一緒に本を読みましょう。

○親子で図書館に行きましょう

休日に地域の図書館に出かけてみましょう。子どもが好きな本を選び、読むことで興味の幅がひろがります。

○誕生日に本をプレゼントしませんか？

親が子どものために選んでプレゼントした本は、子どもにとって特別な1冊になるはずです。



文部科学省が行った「平成29年度全国学力・学習状況調査」の追跡調査として実施された研究では、家庭状況と学力の関係等を分析しています。この中で、家庭の社会経済的背景（SES※家庭所得、父親学歴、母親学歴の三変数による合成指数）が高いほど学力テストの平均正答率が高いことが分かりましたが、更なる分析で、SESが低い場合でも「総正答率（全ての正答率を合算して算出したもの）」が全体の上位25%に位置する子ども（不利な環境を克服している児童生徒）がいることが分かりました。

右表から「不利な環境を克服している児童生徒」の保護者は、同じSESで学力が上位以外の保護者と比べて、文字に親しむように促す姿勢、知的な好奇心を高めるような働きかけを行っている点が特徴と読み取れます。

		小6	中3
子どもが小さいころ絵本の読み聞かせをした（「あてはまる」の割合）	不利な環境を克服している	39.9%	39.1%
	不利な環境で学力が上位以外	30.3%	31.1%
子どもに本や新聞を読むようにすすめている（「あてはまる」の割合）	不利な環境を克服している	25.5%	20.1%
	不利な環境で学力が上位以外	16.2%	12.5%

参考「平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」国立お茶の水女子大学



毎月第3日曜日は「家庭教育・家庭の日
（いきいきセンター）」です

奈良県立教育研究所



（平成30年11月）

家庭教育Web ページ